

身体の夢 - ファッション or 見えないコルセット -



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

京都展

会期:1989年4月6日~6月6日

会場:京都国立近代美術館

主催:京都国立近代美術館

京都服飾文化研究財団

キュレーション:河本信治(京都国立近代美術館)

深井晃子(京都服飾文化研究財団)

東京展

会期:1999年8月7日~1999年11月23日

会場:東京都現代美術館

主催:東京都現代美術館

京都服飾文化研究財団

朝日新聞社

キュレーション:河本信治(京都国立近代美術館)

深井晃子(京都服飾文化研究財団)

ソウル展

会期:2005年6月15日~7月31日

会場:ソウル市立美術館

主催:ソウル市立美術館、韓国国際交流財団、

国際交流基金、京都服飾文化研究財団

キュレーション:

キュレーション:河本信治(京都国立近代美術館)

深井晃子(京都服飾文化研究財団)

パク・チョンナム(ソウル市立美術館)

パク・パラン(ソウル市立美術館)



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

概要

20世紀初頭、コルセットが捨てられた時から、ファッションは躍動する身体の美しさを発見し、その機能性を追及する方向へと進んできました。同時に私たちは若々しくスリムな身体という妄想に取り付かれて直接的な身体造形を始めました。その行為は「見えないコルセット」を競って身に付けてきたと言えるかもしれません。そして20世紀末、臓器移植や遺伝子工学の実用化が急速に進み、ファッションと身体との関係はすでに変化の兆しを見せています。明日のファッションと身体を考えると、過去を振り返ること、とりわけ、未だ総括されていない20世紀を振り返ることは重要です。本展は20世紀を代表するファッション・デザイナーたちの作品と、ファッションを通して身体の意味を考える現代美術作品を対峙させ、20世紀のファッションを身体との関係で捉え直し、明日の二者の関係を展望しました。

2005年には、本展の内容を基礎として「Visions of the Body 2005」をソウル市立美術館にて新たに開催しました。

出展内容（京都展）

衣装:	120点
美術作品:	70点
出展品総数:	190点

展示: 出展品を、「プロローグ：成型された身体」「第1章：自然な身体と20世紀のファッション」「第2章：揺らぐ身体とファッション」の3つのグループに分類。衣装と美術作品とを対峙させつつ展示しました。